

【修士論文要旨】

織田弾正忠家の居城と城下町政策

林 沙也加*

本稿の目的は、織田信貞・信秀・信長三代における権力の展開および尾張支配をみていくことと、小牧の有様の検討から、最終的に永禄6年（1563）に信長が築城した小牧山城をわずか4年で廃城とした理由について検討することにある。

信長は小牧山に城を築くと永禄10年（1567）に稲葉山城を攻略し、拠点を岐阜に移すと小牧山城は廃城となった。しかし、近年の発掘調査で屋敷群や石垣・茶器などが出土した上、地籍図を基に小牧山城下に城下町が発見されたことから従来の考えである美濃攻略のための一時的な城から尾張国の新たな首都機能を有した城と評価されるようになった。しかし、尾張国の新たな首都機能を有していたのであればわずか4年で廃城となったことに疑問をもった。廃城理由について近年の研究では、竹井英文氏により日本東西の城の史料から(1)平和裏に廃城、(2)攻撃を受けて落城して廃城、(3)停戦・和陸による廃城、(4)大名間国分による廃城、(5)整理・統合による廃城、(6)維持管理困難による廃城の六つの理由をあげた。しかし、竹井氏の六つの廃城理由を参考にすると従来の小牧山城の美濃攻めの後に役目を終えたため廃城という理由はみられない上、小牧山城の研究においても廃城については深く言及されていない。また、尾張国の城についての研究は千田嘉博氏や谷口克広氏などが城単体をみているものが多く、城全体をみて弾正忠家の支配領域をみたものはみられない。よって、本稿では小牧山城廃城理由が弾正忠家の支配領域に関係すると考え、弾正忠家の支配領域と小牧の有様をみた上で検討した。

第一章では、織田信貞段階の地域支配を考察した。明応4年（1450）から同6年に生じた船田合戦以前から伊勢守家と大和守家は争っており、一度和睦したものの船田合戦を機に再び争った。合戦は伊勢守家が援軍として加わった斎藤利国方が勝利するも明応5年12月に近江へ出陣した斎藤利国軍は近江柿帷衆の一揆により壊滅し、美濃斎藤氏の尾張国への干渉も終焉を迎え、近江国の一揆により岩倉方の勢力も弱まった。また永正13年妙興寺へ織田達勝の寺領判物に副えて信貞・良頼・広延の連署判物において安堵した寺院が中島郡のみでなく丹羽郡もみられたことから永正13年段階においては和守家の支配領域は丹羽郡にまで、及んでいたと推測した。

第二章では、織田信秀段階の地域支配を考察した。先行研究では、勝幡城が交通の要衝であったなど勝幡城の特徴については触れられているが、廃城年は明らかにされていない。勝幡城に関して、『尾陽雜記』や『尾張志』から、勝幡城が廃した後に武藤氏が信長の命により置かれたことから、信長が尾張国を統制していた時期に勝幡に武藤氏が勝幡に入ったと考え、更に勝幡が廃

*国際人間学研究科歴史学・地理学専攻 博士前期課程

れた後に武藤氏が置かれたため、信長が家督を継いだ後に廃城となったとする。また、信秀の妹の一人が美濃国・遠山氏に嫁いだことや子信長と斎藤道三の娘を婚姻させたことから信秀段階においても美濃国との関わりは欠かせないものであったと推測する。

第三章では、織田信長段階の地域支配を検討する。『小牧市史』によれば、信秀段階で江崎善左衛門宗度に小牧山を守らせ、信長が岐阜に移った後に宗度が再び小牧山を守ったとある。また、『東春日井郡誌』に宗度について、享禄3年（1530）に知多郡大高江崎義臣の家に生まれ、天文16年（1547）に斎藤氏と争った際には信秀に従うも負傷し、岩倉城に退くも後に小牧山に居住した。しかし、『織田信雄分限帳』では小牧間々を安井将監が知行し、小牧の中村郷を御内様が知行したとあるが、信秀・信長段階で小牧山を守備した江崎氏の名はみられない。よって、信秀段階から小牧という地は重宝されており、岩倉方と対立する上で重要な地となった。また、信長の妹の一人は美濃国・苗木遠山氏に嫁いでいるため、信長段階においても美濃国との関わりは重要であったとする。

以上のことから弾正忠家の支配領域の変遷には美濃国との関わりが必須であり、信長にとって小牧よりも犬山の方が重要であったために小牧山城は廃城としたと考える。

参考文献

- 愛知県教育委員会編『愛知県中世城館跡調査報告Ⅰ（尾張地区）』愛知県教育委員会、1991年。
- 愛知県史編さん委員会編『愛知県史 資料編10 中世3』愛知県、平成21年。
- 愛知県史編さん委員会『愛知県史 資料編13 織豊3』愛知県、平成23年。
- 愛知県史編さん委員会編『愛知県史 通史編2 中世1』愛知県、平成30年。
- 愛知県教育会『尾陽雑記』愛知県教育会、昭和7年。
- 池上裕子『人物叢書 新装版 織田信長』吉川弘文館、2012年。
- 犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会『犬山市史 通史編上 原始・古代、中世、近代』犬山市、平成9年。
- 犬山市教育委員会・犬山市史編さん委員会『犬山市史 史料編3 考古・古代・中世』犬山市、昭和58年。
- 小野友記子「小牧山城と城下町」『第4回東海学シンポジウム資料集』NPO法人東海学センター、2016年。
- 小野友記子「「土の城」から「石の城」へ—小牧山城の発掘調査成果から—」『第3回東海学シンポジウム2015 いくさの歴史Ⅰ—戦争の本質を見つめ直す—』NPO法人東海学センター、2018年。
- 尾張小牧歴史文化振興会編『尾張小牧の地名・逸話ものがたり』風媒社、2019年。
- 岐阜県編『岐阜県史 通史編 中世』岐阜県、昭和44年。
- 清須市新川町史編さん委員会編『新川町史 通史編』清須市、平成20年。
- 江南市史編さん委員会編『江南市史 本文編』愛知県江南市、平成13年。
- 小牧市『史跡小牧山主郭地区 第11次発掘調査 現地説明会資料』、平成30年。
- 小牧市『史跡小牧山主郭地区 第9次発掘調査 現地説明会資料』、平成28年。
- 小牧市史編集委員会『小牧市史 本文編』小牧市、昭和52年。
- 小牧市教育委員会『小牧叢書4 小牧の古文書』小牧市教育委員会、昭和50年。
- 佐織町史編さん委員会編『佐織町史 通史編』佐織町役場、平成元年。
- 鈴木正貴「小牧山城とその城下町の土師器」愛知県埋蔵文化財センター研究紀要第12号、2011年。

千田嘉博『信長の城』岩波書店、2013年。

竹井英文『歴史文化ライブラリー 475 戦国の城の一生つくる・壊す・蘇る』吉川弘文館、2018年。

谷口克広『天下人の父・織田信秀—信長は何を学び、受け継いだのか』祥伝社、2017年。

『中区制施行一〇〇周年記念 名古屋市中区誌』中区制施行一〇〇周年記念事業実行委員会、平成22年。

中嶋隆「小牧」内堀信雄・鈴木正貴・仁木宏・三木唯美編『守護所と戦国城下町』高志書院、2006年。

名古屋市教育委員会編『名古屋叢書続編 第一巻 寛文村々覚書（上）—第一回配本—』名古屋市教育委員会、昭和39年。

名古屋市教育委員会『名古屋叢書続編 第20巻 士林派涸(4)—第18回配本—』名古屋市教育委員会、昭和43年。

名古屋市教育委員会『名古屋叢書続編 第19巻 士林派涸(3)—第15回配本—』名古屋市教育委員会、昭和43年。

塙保己一編『新校 群書類従 第十六巻』名著普及会、昭和3年。

東春日井郡役所『東春日井郡誌』東春日井郡役所、大正12年。

『尾張志』愛知県郷土資料刊行会、昭和54年。

『愛知県小牧市 小牧城下町発掘調査報告書—新町遺跡—』小牧市教育委員会、平成10年。